

卒業論文 要旨

「性のフレーム——魔法少女に変身する少年」

問題提起

少女だけでなく、魔法少女に憧れを抱いた全ての人間が魔法少女になれるのか。

対象

魔法少女、アニメ作品「魔法少女まどか☆マギカ」、魔女裁判時代の魔女、現代の魔女を対象とする。

方法

上記対象に関する書籍、先行研究を基に考察を行う。

本論（各章考察）

1 章

魔法の要素が背景にあるキリスト教文化を無視する形で日本のカワイイ文化と融合し、魔法少女が生まれた。魔法は魔法少女の基であり表裏の存在である。

2 章

魔法少女まどか☆マギカでは魔法少女たちは契約時の願いに沿うような能力を持つ。願いとは、思想、妄想であり、このことから魔法とは想像を具象化させる能力であると考えられる。

3 章

キリスト教によって生み出された **witch** とは元は男女を指す言葉であったがキリスト教の持つ女性軽視の風潮から次第に女性を主に指す言葉に変化したと考えられる。

4 章

キリスト教以前の信仰などを土台にした新しい宗教である。現代魔女宗は 2 つの世界の行き来を重要視しており、ゲームや小説の世界に没入することも行き来の手法の一つだとしている。

結論

魔法とは空想の具象化、現代魔女宗ではもう一つの（空想）世界への行き来を魔法術とするという 2 つを合わせると、VR 技術が、我々が男女問わず魔法少女になる可能性の鍵となるのではないかと考えられる。

本論の意義

魔法少女と現代魔女を関連付けた先行研究は見当たらず、また現実世界の間側がフィクション世界へ行く方法を考察した先行研究も見当たらなかったため、本論はオリジナリティを持つと考える。